

<p style="text-align: center;"><b>技術者倫理</b> (Engineering Ethics)</p>	<p style="text-align: center;"><b>2 年・前期・2 単位・必修</b> <b>3 専攻共通</b> <b>担当 桑原 英之</b></p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A-2 (80%), D-2 (20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 b, d-2a</p>
<p>〔講義の目的〕</p> <p>人間の生活にとって技術は必要不可欠なものであり及ぼす影響も極めて大きい。それゆえ、技術が関係する問題が発生しないように、あるいは発生してしまった場合に的確な判断が出来るように、高度な知識と技術をもつ技術者が高い倫理性を身につける必要がある。本講義は専門家に見合った高い責任を負う技術者に求められる知識や判断力を養うことを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>この講義では倫理とはそもそも何か説明した後、技術者が関わる具体的事例を通じて何が倫理的に問題になるのか、どのような決定を行い行為することが倫理にかなうのかといったことを、受講生との討議を通して考察することになる。また、最終の 3 回は弁理士による知的財産権の講義を行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>座学だけでなくグループによる事例の紹介・分析に関するプレゼンテーション、ディスカッションや質疑応答も行う。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>専門家としての技術者の社会に対する責任を理解する。</p>		
<p>〔自己学習〕</p> <p>到達目標を達成するためには、授業以外にも講義で扱わない事例などを分析し理解を深める必要がある。時事問題などにも関心を持ち自学自習する事。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>(桑原担当回) プレゼン及びディスカッションへの貢献：30%、最終レポート：50%</p> <p>(平田担当回) グループディスカッションへの貢献：5%、各回で配布する資料への回答提出 15%</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>『はじめての工学倫理 第3版』、斎藤了文・坂下浩司編、昭和堂、2014</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>政治・経済、現代社会と法、人文科学特論、社会科学特論などとの関連が深い。</p>		

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
1 週	イントロダクション	技術者倫理を学ぶ意義、および倫理の基本的知識の理解	
2 週	事例検討①	守秘義務と公衆の福利	
3 週	事例検討②	組織とエンジニア：コロンビア号事故・チャレンジャー号事故	
4 週	事例検討③	安全性と設計：日航ジャンボ機墜落事故・ユニバーサルデザイン	
5 週	事例検討④	事故調査：日航機ニアミス・信楽高原鉄道事故	
6 週	事例検討⑤	製造物責任三菱自動車工業リコール隠し事件・六本木ヒルズ回転ドア	
7 週	事例検討⑥	セクシャルハラスメント：職場でのセクシャルハラスメント 米国三菱自動車訴訟	
8 週	事例検討⑦	施工管理：原発コンクリート大量加水事件・欠陥住宅	
9 週	事例検討⑧	工程管理：雪印乳業集団食中毒事件・JOC 臨界事故	
10 週	事例検討⑨	維持管理：エキスポランド・ジェットコースター事故・東京電力トラブル隠し	
11 週	事例検討⑩	専門家の誇り：シティーコープタワー 環境に配慮したデンソーのカーエアコ	
12 週	事例検討⑪	内部告発：ギルベイン・ゴールド、日本における内部告発の事例	
13 週	事例検討⑫ (知財講義)	知財とは何か？：特許を受ける権利（生ゴミ処理装置事件） ：職務発明（青色発光ダイオード訴訟）ほか	
14 週	事例検討⑬ (知財講義)	意匠・商標：ネーミング（面白い恋人事件） 不正競争防止法・著作権：引用とパロディについて ほか	
15 週	事例検討⑭ (知財講義)	ワークショップ：発明と商品ネーミング	
学年末試験・レポート			

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)